

# みんなのわ

■発行:CLC  
特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター  
仙台市青葉区木町16-30 TEL:022-727-8730  
■編集:「みんなのわ」編集委員会  
■発行日:平成23年5月25日 部数:4,000部  
■配布地域:国見・八幡小学校区、木町周辺

## 3.11 東日本大震災 いまこそ、地域でつながろう！

震災により、「みんなのわ」  
4・5月号を休刊しましたこと  
をお詫びします。



東日本大震災で亡くなられた方に謹んでお悔やみ申し上げます。また、被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

CLCが運営する「国見・千代田のより処ひなたぼっこ」のある青葉区千代田町でも、多くの方が避難所生活を送りました。水道や電気の復旧により避難所が次々と閉鎖されるなかで、十分に住める状態ではない自宅での生活を強いられ、また、住む場所を失った在宅介護者や子育て世帯などの姿がありました。

千代田町町内会では、早くから炊き出しが行われました。男性は木を折ってたき火の番をし、女性は集会所で調理を担当されていました。片付けまで含めて日の明るいうちに終了できるように、と町内会

長が地域を巡り避難所の支援もしながら、炊き出しも指示されていました（朝は6時集合、夕方は15時集合・17時解散）。また、配食の必要な家を調査し、地域の方が炊き出したものを配って歩いていました。地域を知る町内会だからこそその底力、そして人と人のつながりの重要性をあらためて感じました。

また、東日本大震災によって、福祉避難所に関する相談窓口が定められていないことにも気づきました。どこに相談すればよいのかを、地域包括支援センターや福祉施設の職員でさえ知りませんでした。被災時に、どんな支援が必要で、どうすれば支援が受けられるのかを、早急にまとめる必要があると感じます。

### 「ひなたぼっこ」で職員&ボランティアを募集中！

- ★ひなたぼっこ運営のための介護・看護職員（常勤2人）
- ★被災地で活動するボランティアの受け入れ担当の職員（非常勤2人）
- ★配食など地域活動を行うボランティア

⇒「ひなたぼっこ」の詳しい活動は2頁をご覧ください。





集いの場&支え合いの拠点  
「ひなたぼっこ」だより

<http://www.clc-japan.com/hinatabokko/>

「ひなたぼっこ」では、被災翌日から、国見地区民生委員児童委員協議会や葉山・国見地域包括支援センターなどの協力を得て、住まう場所を失った方の一時避難としての宿泊の提供や、朝昼夜の配食、お米やおむつ、絵本の宅配、買い物代行、安否確認や話し相手、被災した家の片づけなどに取り組んでいます。



これまでに緊急宿泊を利用された方は6人で、自宅に戻られた後も、配食や入浴支援など継続的に支援しています。4月18日までに、千代田町近辺にお住まいの14の方に朝・昼・夕食を781食提供し、10世帯の家の片付けをお手伝いし、17世帯にお米・おむつ・絵本を宅配し、61人のボランティアが見守りや話し相手として活動しました。



また、3月19日～4月18日まで、東北福祉大学正門脇のファミリーマートの隣で「おにぎり2個と味噌汁セット」を648セット販売したほか、3月25日夜には「一息つこ

う会」を開き、地域の方々と震災の疲れをねぎらい、語らう場となりました。

さらに、「ひなたぼっこ」では、被災支援団体の拠点としてスペースを提供しています。3月12日～21日まで避難所巡回活動を行った「医療ボランティア AMDA (アムダ)」(本部：岡山県)には、千代田町内会の皆さまのご協力を得て3食の食事づくりと、宿泊、避難所への運転などを行いました。

介護・看護職ボランティアの避難所への派遣、物資・車両支援を行う「東北関東大震災・共同支援ネットワーク」は、3月16日～現在に至るまで、ひなたぼっこに事務局を置いて活動中です。

そのため、ボランティアの派遣・支援物資の移送などにより、「ひなたぼっこ」への人の出入りが非常に多く、荷物の積み込みなどで路上駐車時間も長いなど、地域の方々にはご迷惑をおかけし、大変申し訳ありません。

再び地域の方々にふらりと立ち寄って談笑いただける場となれるよう、5月の連休明けより地域食堂(毎週水曜日)、および居酒屋(毎週金曜日)を再開しています。ぜひご利用ください。



イラスト  
by みゆき

地域ぐるみの子育てを応援する場  
「八幡みんなの家」だより

<http://www.clc-japan.com/minnaoie/>

地震当日、「八幡みんなの家」には6組の親子連れがいましたが、幸いにも被害はなく、来所されていた方々の家も、大きな被害はなかったようです。

3月13日には、三条中学校、国見・八幡・木町小学校へ販売用の駄菓子類の差し入れを行い、三条中学校にはポットの貸し出しも行いました。

3月末に予定していた「いちご狩り」や、4月半ばに予定していた「船岡一目千本桜」の花見などは、中止せざるを得ない状況でした。また、八幡みんなの家を利用する方々は、幼い子連れのママたちが多く、ほとんどの方が震災後に実家へ帰られたため、3月末まで休業させていただきました。

4月に入り再開しましたが、利用料の代わりに「義援金」という形でいただき、青葉区の児童館や認可外保育、宮城野区の避難所数か所に支援物資を届けに行きました。また、多賀城市や雄勝町で被災された利用者や知人の情報を聞き、支援物資を送らせていただきました。

現在も毎日のように続く余震で、来所されるお客さまたちも不安な様子ですが、自宅でポツンといるよりも、八幡みんなの家でママ友と話すことが安心につながっているようです。そこで気分転換にと、4月22日(金)に仙台駅前の和食店「大原」でのランチ会を企画し、楽しい時間を過ごすことができました。

4月から予定していた「外出保育」に関しては当分の間実施を見合わせていただき、代わりに、5月以降から月1回程度、親子対象の簡単な工作や近隣へのお出かけなどの楽しい企画を考えています。同時に、支援物資の配給や受け入れも続きます。

なお、5月以降の「八幡みんなの家」の利用時間は、10時～17時までとさせていただきます。また、利用料として一般の方からは500円をいただき、会員には従来通り会員費をいただいて、その利用料と会員費の一部を義援金として被災地に送りたいと考えています。